

R8.9.9「『生きる』教育」 南市岡小学校公開授業・研修会 資料

『生きる』教育の実践

2026年9月9日（水）

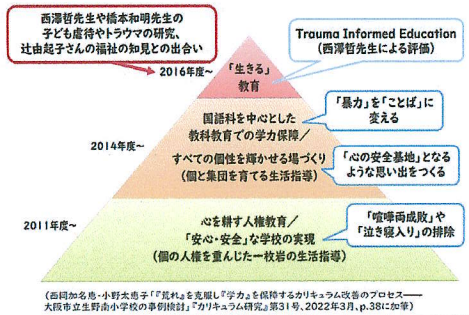
大阪市立南市岡小学校 校長 木村 幹彦

この資料は、R8.9.9に実施される大阪市立南市岡小学校「『生きる』教育」公開授業研修会・講演会へ参加される皆様に向けて、事前の情報提供として本校HPに掲載させていただいています。このスライド資料では、「『生きる』教育」の成り立ち、実際、効果や「生命の安全教育」との関係について述べています。

また、他に公開する授業の指導案や行政機関から出されている「説明」や「手引き」等の資料もHPに掲載させていただいています。さらには、生南小学校で閉校までの8年間、その後、本校で2022年から国語・図書館教育のご指導をいただいている田村泰宏先生に、「『生きる』教育」に迫る「深いことば学び」の授業構想「わたしもこのことばをつかってみたい!」とを感じる授業を一の論文を特別にご寄稿いただき、掲載しています。

研修会当日は、公開授業とワークショップにかなりの時間を取っていますので、事前にこれらの資料にお目通しいただければ幸いです。（校長 木村幹彦）

「『生きる』教育」の成り立ち



では、「『生きる』教育」の成り立ちです。2011年度、私が教頭として赴任した生南小学校は激しい暴言暴力、器物破壊、授業離脱、教師への反抗あぐく、「今までに教師〇人辞めさせた」と豪語する児童がいるような状況でした。

実際、新学期早々他校から着任し、5年生の担任を受け持ったベテラン教員が、1週間で辞めてしまいました。理由は、「校区内の児童養護施設から来ている児童の集団が、教室内で暴力を伴う激しいいじめをしているが、施設内での人間関係から起きていることで、全く指導が入らない。」とのことでした。このような事が、全校的に起きているというのが現状でした。

■目次

- ・自己紹介
- ・「『生きる』教育」の成り立ち
- ・「『生きる』教育」と「生命の安全教育」
- ・「『生きる』教育」の実際
- ・「『生きる』教育」の効果
- ・おわりに

話の流れはこのスライドの通りです。

学校を安全・安心・愛情の場に

加害行為の抑止

暴力行為の抑止

「泣き寝入り」をさせない⇒児童観察、いじめ事象の掘り起こし
「喧嘩両成敗」の排除⇒50対50の喧嘩はほぼ起きない
「お互いに謝る」ではなく「お互いに謝らない」の選択を可能に

加害者にのみに謝罪をさせる原則 ⇒ 自力救済不要⇒仕返し行動の抑止

暴力類似行為の抑止

デコピンしようなは決闘罪

戦いごっこも決闘罪

かかってこいでも傷害罪

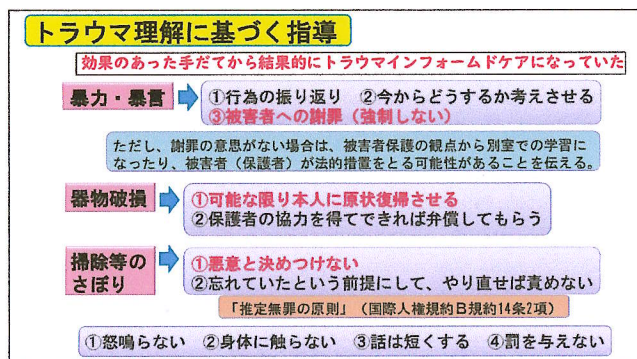
わざとで無くても過失致傷罪・未必の故意

そこで、まず始めた、子どもたちへの支援は、対人関係、特に暴力のトラブルに対し、「泣き寝入り」と「喧嘩両成敗」を排除し、個々的に確かな指導をしていくことでした。それは、被害の訴えがなくても、加害的な行為に介入して弱い立場の子どもを守ることでした。

また、執拗な嫌がらせに我慢しきれずやり返してしまった子どもには、被害児童の心情をくみ取り、「お互いに謝る」のみを求めず「お互いに謝らない」の選択肢も示し、本来の被害者であったはずの児童を責めずに守りました。

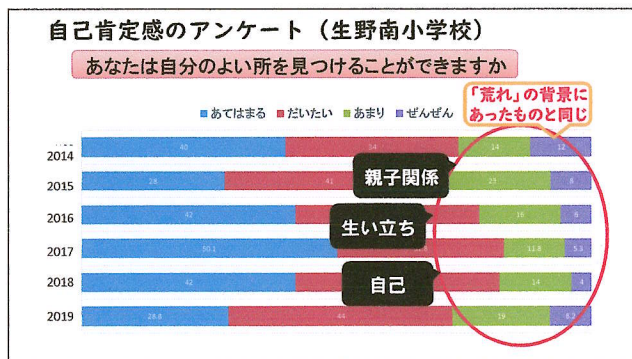
そして、証拠に基づいた公正なジャッジにより、加害児童すなわち、故意に原因を作った等、より責任の重い児童のみに謝罪させることを原則としました。その結果、仕返し行動は徐々に抑制されました。

さらに「デコピンしようなは、決闘罪」「かかってこいでも傷害罪」「わざとで無くても過失致傷罪・未必の故意」ということを分りやすく教え、暴力類似行為を徹底して指導しました。



また、これまでの中学校での経験で効果のあった①怒鳴らない ②身体に触らない ③話は短くする ④罰を与えない等の指導を取り入れました。これが、のちに、結果的にトラウマ理解に基づくものになっていたと山梨県立大学教授 西澤哲（にしざわ・さとる）先生に教えていただきました。

そして、子どもたちがすぐ手を出してしまうのは、言葉で伝える力が弱いからではないかということで、2014年度から国語科の学習に力を入れ、学校行事等でも常に子どもたちの思いを聞く等、表現の場を増やしました。



それがこれです。「あなたは自分のよい所を見つけることができますか」この質問に否定的に答える子どもたちが、どうしても3割程度いるということでした。これらの多くが、家族のことで悩む児童であり、抱える課題の一つ一つは、かつて、校内で暴れていた子どもたちとまったく一緒でした。

正直、私は、学校ではこれ以上は無理だと思っていましたが、研究部長の小野太恵子先生が職員会議でこれを何とかしたいと声をあげました。

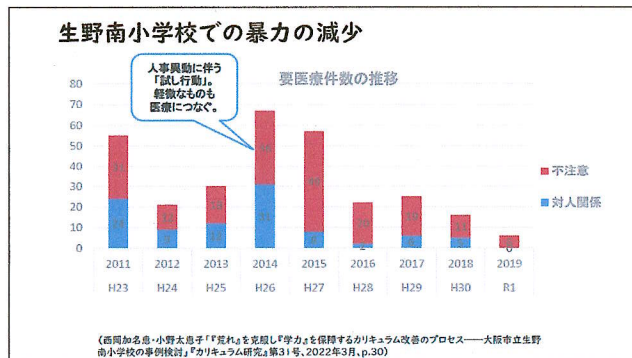
そして、西澤哲（にしざわさとる）先生や橋本和明（はしもとかずあき）先生の子どもの虐待やトラウマの研究、辻由起子（つじゆきこ）さんの福祉の知見にであい2016年以降、「『生きる』教育」が作られていきました。

※西澤哲先生は、多くの虐待死事件（2010西区虐待死、2014厚木市男児放置死、2018目黒女児虐待死）の加害保護者の心理鑑定をされている。

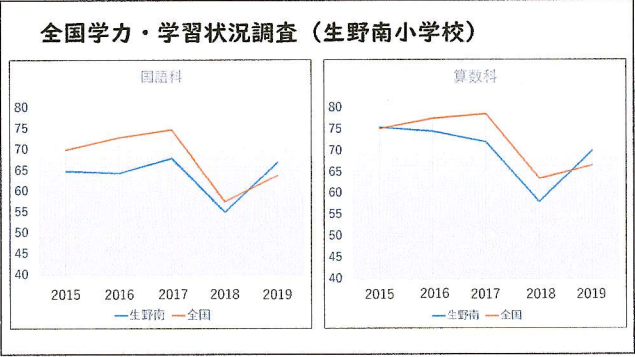


昨年4月16日には、NHKクローズ現代では「校内トラブル激減 感情リテラシーを育む授業」として1年生の国語の授業が紹介されました。それは、この流れで「心を育てる国語科教育」にも力を入れてきたからだと思います。

では、生野南小学校に話を戻します。2016年度、学校は一定、落ち着いてきたのですが、解決しない課題がありました。



それらの効果が表れてきた、2019年度には、対人故意によるケガの要医療件数は0になりました。



また、全国学力・学習状況調査の結果も全国平均を上回りました。

●『『生きる』教育』の一場面
小4 ライフストーリーワーク (LSW)

ハルト「最近困っていることはありませんか？」
ケンタ「最近困っていることは、友達関係に困っています。仲よくならないけど、つい言い合いを言ってしまうって困っています。」
ハルト「そっか。[考え込む]まあそうですね。その相手が嫌がることをなんとか言わなくすればいいけど、それがなかなかできへんの？」
ケンタ「そうそう。」
ハルト「話さな。どうする？ [考え込む]つづつんへ、どうしたらええんやろうなあ、つい言ってしまうんやろ？」
ケンタはうなずく、不安そうに身体をゆすっている。
ハルト「なんか息をついていかなと。」
この会話の後、ハルトは「友達へのせし方を工夫すればいいんじゃないですか。」というアドバイスを書いた付箋紙をケンタに贈った。悩みを打ち明けたケンタは、取材者のインタビューに答えて、「秘密のことを初めて言うからドキドキした。」「[聞いてもらって]気持ちがいすすきりした。」「あおりを止められるようにしたい」と語っています。横で聞いていたハルトは「ケンタくん優しいからなれる」と励まし、ケンタは「うれしい」と言って、受け取った付箋紙を真剣に見つめていました。（児童名は仮名、第3巻より）

テレビで紹介されました。



そして、2020年頃から『『生きる』教育』として新聞や



そして、テレビ放送がきっかけで、京都大学の西岡加名恵（にしおかかねえ）先生が、本校の公開授業に参加し、何度も足を運ばれてこのような本作りにもつながりました。

『『生きる』教育』と『生命の安全教育』

2025年度年間指導計画 ◇『『生きる』教育』★『生命(いのち)の安全教育』
○大阪市教育委員会『生きる力を育む『性に関する指導』』への教材提供

学年	内容	教科領域	単元・主題・テーマ	学年	内容	教科領域	単元・主題・テーマ
1年	命	生活科	◇○★ たいせつな ごころと体 ～プライベートゾーン～	4年	命	保健体育	からだの成長について考えよう
	キャリア	道徳	みんなのために 「120てんのそうじ」		キャリア	特別活動	◇○ 10歳のハローワーク ～LSWの視点から～
2年	命	特別活動	◇○★ 人との距離感って？	5年	命	特別活動	◇ SNSについて考えよう スマホを使ったコミュニケーション
	家族	生活科	むかしはみんな赤ちゃんだっ た～命のルーツをたどる～		家族	家庭科	毎日の生活を見つめよう レシピ作り「命の健康をまもる」
	キャリア	道徳	森のゆうひんやさん		キャリア	道徳	働くということ 「父の仕事」
3年	命	特別活動	◇○★ 子どもの権利条約を知ろう	6年	命	特別活動	◇○★ デートDV 愛？支配？ ～パートナーシップの視点から～
	家族	道徳科	家族だから 「お母さんのききうき」		家族	家庭科	生活時間をマネジメント
	キャリア	道徳科	仕事のはやりがい 「家族館ではたらく」		キャリア	道徳	ウイルスとの戦い ～父にエールを～

では、「『生きる』教育」と「生命の安全教育」との関係についてです。
この水色の授業は、昨年度の本校の「『生きる』教育」です。

そのうち★印がついているのは、本校が文部科学省「命の安全教育」大阪
市普及展開拠点校として、大阪市教育委員会に、普及展開内容と認められて
いる授業です。

そして、○印は、大阪市教育委員会「生きる力を育む『性に関する指
導』」への教材提供している授業です。(生野南小の元々の授業は、指導の
手引きに全学年分、提供校生野南小学校と明記されて掲載されています。

かなりの重なりがある理由は、そもそもどちらも「『生きる』教育」がモ
デルになっているからです。

『『生きる』教育』とは

『『生きる』教育』:子どもたちが直面する「人生の困難」を解決するために必要な知識を
習得し、友だちと真剣に話し合うことで安全な価値観を育むことをめざす教育。

子どもたちにとって一番身近であり、心の傷に直結しやすいテーマをも授業の舞台にのせ、
社会問題として捉えなおすとともに、授業の力で子どもたち相互にエンパワメントを生み出
し、個のレジリエンスへつなげることをめざしている。

(西澤哲・西岡加名恵監修『『『生きる』教育』——自己肯定感を育み、自分と相手を大切
にする方法を学ぶ』日本標準、2022年)

『生きる』を教える他のアプローチ

- ・道徳:
徳目主義の問題点 → 「考え、議論する道徳」
「自主、自律、自由と責任」「希望と勇気、光と
強い意志」「思いやり、感謝」「相互理解、寛容」
「道徳精神、公徳心」「家族愛、家庭生活の充
実」「生命の尊さ」「よりよく生きる喜び」など、
毎年22項目
- ・生活科:
《作文による自己表現と集団での交流》
・生活指導《集団づくりを通じた自治の指導》

『『生きる』教育』

- 子どもたちの「認識」へのアプローチ
- ・徹底した教材研究
(法学、医学、心理学、福祉学……)
- ・子どもたちに獲得させたい理解を
自問として明確化
- ・効果的な指導方法の開発
(ハズオン、マインドオン)

結局「『生きる』教育」とは、なにかというと。子ども
たちが直面する「人生の困難」を解決するために必要な知
識を習得し、友だちと真剣に話し合うことで安全な価値観
を育むことをめざす教育。

そして、子どもたちにとって一番身近であり、心の傷に
直結しやすいテーマをも授業の舞台にのせ、社会問題とし
て捉えなおすとともに、授業の力で子どもたち相互にエン
パワメントを生み出し、個のレジリエンスへつなげること
をめざす教育。だといえると思います。

2026年度 南市岡小学校の『『生きる』教育』

【小1・5・6】 虐待予防教育

- ・ふれること・ふれられることにつ
いてかんがえよう——
プライベートゾーン(小1)

【小5】考えよう!みんなの凸凹——
子どもの権利からフレンドリープラネットへ

- ・愛? 支配?——パートナーシップ
の視点から(小5・小6)
- ・親子関係を考えよう——
心の傷のメカニズム(小6)

【小2・3・4】 ライフストーリーワークの 視点を取り入れた教育 ——治療的教育

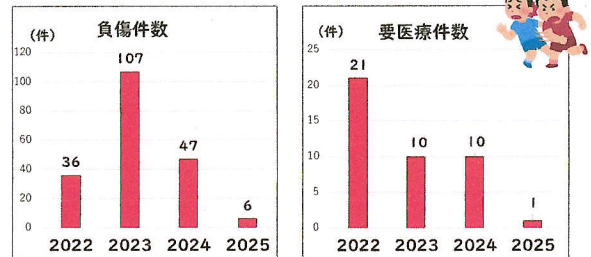
- ・むかしはみんな赤ちゃんだっ
た——命のルーツをたどる(小2)
- ・子どもの権利条約を知ろう
(小3)
- ・10歳のハローワーク——
ライフストーリーワークの視点から
(小4)

今年度は、生野南小学校の元々のプログラムに近づけて「愛? 支配?
パートナーシップの視点から」を5年で行い、6年生で「親子関係を考えよ
う 心の傷のメカニズム」を充実させて復活させる予定です。

また、5年生で新たに「考えよう!みんなの凸凹 子どもの権利からフレ
ンドリープラネットへ」という障がい者理解の授業を本校の実態に合わせてリ
ニューアルし実施する予定です。

南市岡小学校の現状

(1) 対人故意の負傷・要医療件数



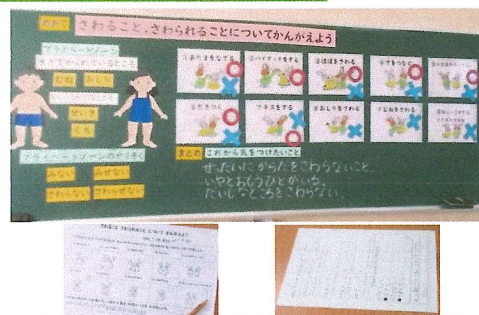
では、実際の学校の変化です。対人故意の負傷・要医療
件数件数は顕著に減少しています。何かトラブルになっ
ても手はださない文化が根付いてきています。

(2) 事故欠席率 (50%以上は赤字)

2025年度		2026年度	
① 2年生	91.5%	① 1年生	52.2%
② 6年生	66.5%	② 1年生	19.4%
③ 6年生	47.5%	③ 1年生	2.9%
④ 6年生	37.5%		
児童数	303人	児童数	282人
授業日数	200日	1学期授業日数	67日

その結果、病気、忌引き、出席停止、公欠、以外の欠席つまり、事故欠席率が低下しているということは、不登校はほぼなくなってくるということです。

【小1】たいせつな ことと体 ~プライベートゾーン~②



次の時間には、様々なふれあい方をしているイラストを見て、プライベートゾーンの約束が守られているか、確認します。今までにあった楽しいふれあい方と嫌なふれあい方を思い出して、意見を交流し、嫌なふれあい方があることに気付くようにします。

人によっての感じ方が違うことに気付いたり、自分の体を守るための方法を話し合います。

17

19

「『生きる』教育」の実際

【小1】たいせつな ことと体 ~プライベートゾーン~①



安全・安心・せいけつ

それでは、「『生きる』教育」の実際を1年生の授業から説明していきます。1年生は、たいせつな ことと体 ~プライベートゾーン~ です。

どこが、安全・安心ではないのかを見つけていきます。次に、清潔ではない状況へ、対処していく過程で、プライベートゾーンの約束を確認します。身体を清潔にするために、お風呂に入るといところで、水着を外そうとすると、子どもたちは、「キャー」「えー」「あかんあかん」と叫びます。そこで、はずかしいという気持ちが大切なことを知らせます。

そして、見ない、見せない、さわらない、さわらせない等、プライベートゾーンの約束を確認します。

授業後の保護者との意見交流で寄せられた声

- ・性犯罪のニュースを見ると怖いと思う。今からきちんと教えていただけるのはありがたい。
- ・そろそろ一緒に女湯に入るの厳しいと思っていたので、説明がしやすくなったので助かった。
- ・友達と意見が違うということを理解するのはとても大事。家でも同じように教えたい。
- ・まだ1年生なのでスキンシップは抵抗なかったが、家庭と学校では違うので気をつけたい。
- ・近所に住む4つ上のお兄さんに「見せて」と言われた。いつも仲良く遊んでくれたので、関係性が悪くなるのが心配で嫌と言えなかった。親にも相談できなかった。今思えば親に相談すればよかったと思うので、万が一の時、我が子に同じ思いをしてほしくないのこの様な学習はありがたい。
- ・低学年の時に通っていた水泳教室の受付のおじさんに触られていた。母親に話した。母親が同じ水泳教室の保護者に聞き取りしたところ、数名被害にあったことが分かった。(その子たちは声をあげられなかった)弁護士を立てて大きな問題となった。

昨年度、授業後の保護者との意見交流で、自身の子どもの時の被害について話された方が2名おられたので、本人の許可を取って赤字でのせさせていただきます。

18

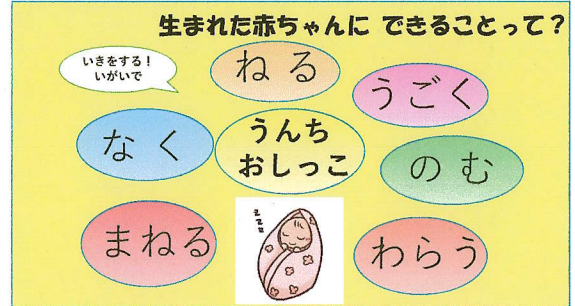
20

過去 「命の誕生」 から 「命の成長」 を学ぶ

- いろんな人との距離感のちがいを知る。
コミュニケーションをとる適切な距離。
自分を守る距離。
0 cmの距離→「お母さんと赤ちゃん」
- 生物学的に赤ちゃんを捉える。
- 自分や家族についての肯定的な側面を強化する。
- 今、ここにいる自分の命を愛おしむ。

「生きる教育」の子どもたちの学習活動の一環として、過去への振り返りにあたるのが、2年生の「赤ちゃんについて考える」学習です。2年生では、まず、いろいろな人との適切な距離感の探索から、0センチメートルの距離から始まるお母さんと赤ちゃんについて学んでいきます。

【小2】 みんなおかしは赤ちゃんだった～いのちのルーツをたどる～ ②



次の時間には、生まれた赤ちゃんができること、また、その行動の意味を考え、

21

23

【小2】 みんなおかしは赤ちゃんだった～いのちのルーツをたどる～ ①

「安心できる きより」

- 自分にとってのパーソナル・エリアを知る。
- 人によってパーソナル・エリアは違うが、一定のルールをみんなで作る。
- 相手によってパーソナル・エリアが違うことを話し合う。
- プライベートゾーンを守るための「安心できる きより」は?



友だちとおしゃべり
するときは、これくら
いの「きより」が
話しやすいな・・・



赤ちゃんが生きてためには「抱っこ」が必要であることを学び、今自分が生きているということは、たくさんの人に抱っこされ、たくさん愛されてきたことに気づくようにします。

1年生で学んだプライベートゾーンを守る意味合いも含めて、2年生では自分と人との適切な距離を探ります。まずは、4人組のグループになり、お互いにリボンを持ったまま、自分が話をしようとする友だちに近づいて行って、話しやすい距離になったときにそのリボンを切ります。そして、自分の話しやすい距離をリボンの長さで可視化することによって、人によって安心できるパーソナル・スペースの違いに気づき、さらに平均的な距離感を示すことでクラスの中での適切なパーソナル・スペースを提示し、近すぎず、遠すぎない距離感を学びます。

次に、エドワード・ホルのパーソナル・スペースの定義を参考にして、お医者さんとの距離や家族との距離、知っている大人・知らない大人との適切な距離を子どもたち同士で話し合い、学んでいきます。

22

24

現在

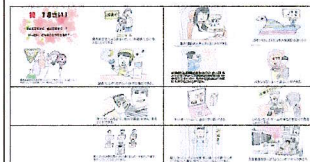
「子どもの権利条約」から、 今の自分をふりかえる

- 「権利」と「責任」について
- 40条の「子どもの権利条約」の内容を知る。
- 自分にとって大切に思う権利とは？
- 自分の生活の中で「守られている権利」と「守られていない権利」について考える。

3年生では、「子どもの権利条約」を学ぶことで今の自分自身を振り返っていきます。

【小3】子どもの権利条約を知ろう ②

「子どもの権利条約」をもっとよく知ろう！
18歳になったら何が出来るの？



児童労働・子ども兵士



この人たちは？



虐待された、少数民族の家族がなんとなくわかったわ！

「大人」って？「子ども」って？

さらに、18歳までを子どもと定義します。第一条から、18歳になったらどんなことができるのか、を想像し、大人になることと子どもの違いを考えていきます。

25

27

【小3】子どもの権利条約を知ろう ①

子どもってなに？

大人になったらなにができる？

1 生きる権利



2 育つ権利



3 守られる権利



4 参加する権利



40条と4つの柱

「人は生まれながらにして、幸せに生きていく権利がある」世界人権宣言をもとに作り出された「子どもの権利条約」40条を学びます。

なぜこのような条約が作られたのか、歴史的背景や世界の子どもたちの状況を知ること、どのような権利が約束されているのか読み込んでいきます。

【小3】子どもの権利条約を知ろう ③



あなたの権利ランキング！

そして、自分にとって大切に思う権利をランキングすることで、友だちとの価値観の違いを分かり合うことで、今の自分と向き合えるようにしています。

26

28

【小3】子どもの権利条約を知ろう ④

第6条
生きる権利・育つ権利
すべての子どもは、
「食料、着る権利が保証」。

第20条
安全な生活をする権利
戦争や災害、飢餓、
病気、貧困から子どもを
守る権利が保証。

第32条
遊ぶ権利
子どもは、遊び、レクリエーション、
文化活動、スポーツ、娯楽活動、
芸術活動に参加する権利が保証。

第19条
家族と暮らす権利
子どもは、家族と暮らす権利が保証。
家族がいない場合は、
養育施設や家族に代わる
保護者と一緒に暮らす権利が保証。

これって、ある意味
虐待ちゃう？

たしか、プ
ライシー守
られる権利
ってあったよね。

守られていない権利

いろいろなや
いんな権利に
守られて
育ってきたんや。

- ・自分一人で なやまないこと。
- ・親（保護者）、教師、身近にいる大人、友だちなど、誰かに相談すること。
- ・友だちが悩んでいることを知ったら、誰か信頼できる大人の人に相談すること。

さらに、さまざまな事例から「子どもの権利が守られている」「守られていない」状況を話し合い、守られていないと分かった時に、だれか大人や友だちに相談することを教えます。

ライフストーリーワークとは

「自分は自分であってよい」

ということを確認するために、今の自分の内面を見つめ、自分の生い立ちや家族との関係を整理していく。
過去をふりかえり、記憶の空白部分を埋めることで過去—現在—未来をつなぎ、アイデンティティの確立を促す。

「今から学ぼう！ ライフストーリーワーク」才村真理&大阪ライフストーリー研究会
より
その理念を踏まえたうえで、集団の中で自己の振り返りを

愛着に問題がある子どもたちには、記憶の空白部分があるケースが多くみられます。自分の生い立ちや家族の関係を整理することで、自分のアイデンティティを確立していきます。

29

31

【小3】子どもの権利条約って知ってる？ ⑤

「子どもの権利」が守られているかたしかめよう！

妹が悪いのに、
いつも私が
ばかられて、
時々、げんこ
つされること、
相談してみよ
う...

SCHOOL POST

最後に、自分の生活を振り返り、子どもの権利が守られていない状況がなかったか考えます。自分の悩みを「お悩み相談室」に相談しよう、という設定にします。そして、集まったみんなの悩みを参考にして、事例を作り、みんなで何の権利が守られていないのか話し合い、悩みを楽にするためのアドバイスをグループで考えて発表しました。

この時、真剣に友達の悩みに向き合う子ども自己肯定感が上がると共に、自分の悩みの解決策を友達が真剣に考えている姿を見た子どもの安全・安心感が上がります。この体験が、支援力や受援力を育て、気が付いたら人に意地悪しようなどと考える子どもがいなくなっています。

未来 過去の自分をふり返り、
輝く未来の自分を描く

- ・自分が大きくなったらやってみたい仕事って？
- ・職業を調べて、その夢をかなえるためのステップを知る。
- ・就職にむけての「履歴書づくり」「面接」（自分を語る）
- ・10歳の自分をふりかえる。（手に入れたカオクシオン）
- ・過去の自分をふりかえる。（心の整理）

4年生では、キャリア教育の流れから自分の将来の夢を探ことから始め、10歳の自分自身を見つめ、さらに、今までの自分の過去を振り返っていきます。

30

32

【小4】10歳のハローワーク ～LSWの視点から～ ①

「未来の自分」 「今の自分」

印刷用（持ち帰り用）のワーク



- 名前・小学校に入るまでの履歴
- 自分アピール
- ・実は、こんなことが得意です・・・
- ・実は、こんなことが得意です・・・
- ・実はわたし、こんなことまで困っています。



履歴書・面接

インターネットでアンケートに答えて適職診断をしてみたり、自分の興味があることから仕事を探してみたりして、調べ学習をすることで「未来年表」を描きます。

そして、次に仕事に就くという設定から、自分を紹介するオリジナルの「履歴書」を書くことで10歳の今を整理していきます。

自分の得意なことの紹介から、「悩んでいること」まで、自己と向き合うことを大切にし、「面接」という形で友だちと一対一で「今の自分」を伝え合います。そして、友だちの話を聞いた後に、その友だちへのホットメッセージを送りあい、やさしい時間を共有します。

「悩んでいること」まで、話すというのが大きなポイントで、始めはみんな当たり障りのない悩みを話しますが、真剣に答えてくれる友達と接して、子どもたちはもう一回やりたいたいと言ってきます。すると、次は本当に悩んでいることが出てきます。いつの間にか、友達に本当の悩みを相談できる関係になっています。

次に、未来の自分を思い描いたときに、今の自分に足りない力を考え、その力を本当に身につけていくためにできることを自分の言葉で発表していきます。その力をオークション形式で落札することで、身につけた力を真剣に考えることができます。

【小5】SNSについて考えよう ～アサーティブ・コミュニケーション～ ①

「自分も相手も大切に話す方について考える」



一方が「不満を持っている」ときのコミュニケーション

相手を尊重しながら
自分の意見を誠実に伝える

対面で伝え合うことさえ難しいのに
SNSの「文字」や「スタンプ」での会話が増えている
親子間においても然り

5年生でも、相手の思いを素直に受け止められなかったり、周りのことを考えすぎて自分の気持ちを伝えられなかったりすることがあります。

そこで、アサーション・トレーニングで相手を尊重しながらも、自分の思いを誠実に伝えるロールプレイを行います。

A班「秋の校外学習で行きたい場所」B班「明日の給食で食べたいメニュー」C班「誕生日に買ってもらった物を話したい」D班「嫌なものや困っていることを言いたい」E班「自分の悩みを相談したい」F班「自由」というテーマで、児童は「気づきメモ」に、自分たちの考えを10分程度チャットに入力した。

思春期を迎え、子どもたちは、友だちや家族でさえ対面で伝え合うことが難しいと感じることがあり、タブレットやスマートフォンでのSNSを使った会話が増えてきていると言われています。

【小4】10歳のハローワーク ～LSWの視点から～ ②

「過去の自分」

未来



現在



過去



わたしの
未来予想図
～未来から過去へ～

過去

最後に、10歳までの自分を振り返り、自分の心の中にある風景を整理していきます。集団でおこなうときには、自分が書ける範囲の思い出を人生ゲームのような形で表現し、個人的に様々な思いを抱えた子どもたちについては、個別でもう一つの振り返りを行います。

画用紙で表現する児童もいれば、聞き取った過去を時系列と一緒に整理していくだけの児童もありますが、その表現の方法も個人によって様々です。ライフストーリーワークという形を安易にとるのではなく、10歳の子どもたちが振り返った時に見えている「過去」という景色を、同じ目線にたって一緒に眺め、ともに悩みともに考えることを一番大切にしたいと考えています。

【小5】SNSについて考えよう ～アサーティブ・コミュニケーション～ ②

「グループチャットや非言語的コミュニケーションの使い方」



画面越しの
見えない相手との
「対話」

SNSでの
グループチャット



実際の事例検討

対面で自分の思いを
伝え合うことで、お互いの率直な
気持ちを交流



そこで昨年度は、SNSでのグループチャットの良し悪しを体感するプログラムを新たに組み入れ、文字の打ち間違いによってグループから退会させられたりしたことについて、話し合いました。

また、このような授業を保護者にも公開し、親子でアサーティブなコミュニケーションについて考えたり、それがSNS上でも注意が必要であると考えたりする機会を持ってもらっていることは、子ども虐待予防の一つになっていると考えています。

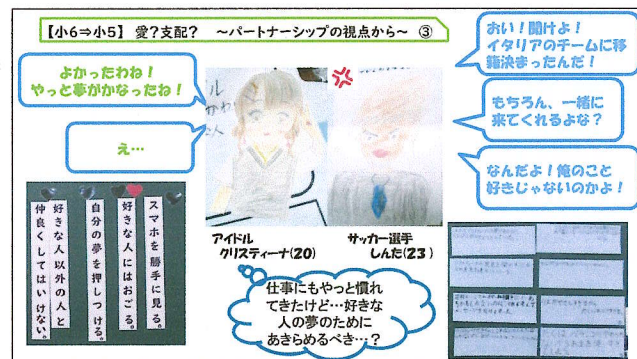


6年生では、アニメのキャラクターを手がかりに、「夫婦」「友達」「恋人」「兄弟」など、特別なパートナーを見つけることができるようにし、「友達」と「恋人」の違いについて話し合います。

※ 学習指導要領では、第9節体育第2各学年の目標及び内容〔第3学年及び第4学年〕2内容G保健(2)体の発育・発達について、課題を見付け、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に着けることができるよう指導する。

ア、身体の発育・発達について理解すること。(イ)体は、思春期になると次第に大人の体に近づき、体つきが替わったり、初経、精通などが起こったりすること。また、異性への関心が芽生えること。とあります。

この「異性への関心の芽生え」を正しい日本語で表現すると「恋心・恋愛感情」だと考えました。これを根拠に、小学校でも恋愛という言葉を使っていいと判断しました。



数年後、悪化した関係性から支配的言動と対処法を見つけ、言語化し、現在の友達や、これから出会うさまざまな人と、良いパートナーシップを築ける自分になるために「今」できることを考え、話し合います。

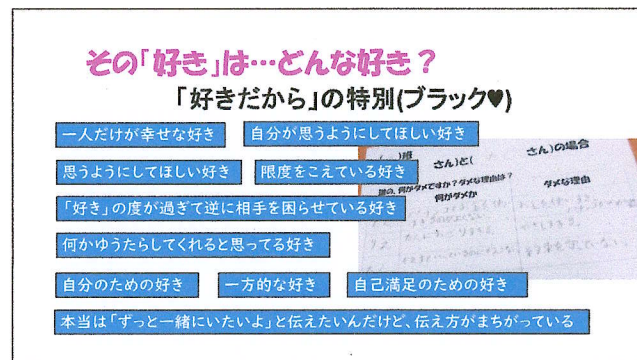
そして、加害者側が、なぜこのような言動をしているのかを考え、本当に相手を思っているのかなのかを考えます。

37

39



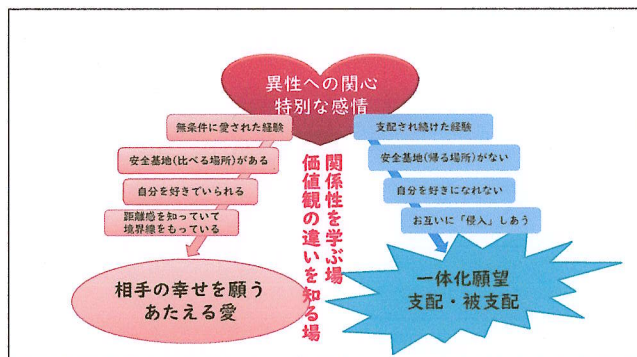
そして、パートナーを見つけることをこの単元の入り口とし、特別なパートナーとの「おでかけプラン」を班で作成することで、良い関係性に必要なことを見出します。ここでは、恋愛の素晴らしい点や危険な点を学びます。そして・・・。



「すてきな好き」とは何か、「よくない好き」とは何か、自分の考えを持ちます。

38

40



学習指導要領にもあるように、思春期の子供たちの誰もが抱く「異性への特別な関心」純粋な感情…という同じスタート地点から、こうも行先が変わってしまう原因は、明らかにされてはいませんが…。

この授業が、子どもたちが関係性を学ぶ場、価値観の違いを知る場となるよう考えています。

めあて心の「傷」について考えてみよう

父と母がお別れした

食事など、家で必要なお世話を受けられなかった

時間を守らなくておしりをバチン

暴力的な犯罪の被害を受けた

友だちに無視された

事故で重傷を負った

夜、父と母がけんかをしていた

震災や火災などを体験した

クラスみんなにいじめられた

お家の人から繰り返し暴言・暴力を受けている

好きな人に振られた

宿題をしたのに忘れてきた

試合でミスをした

テストで悪い点をとった

運動会のリレーでこけて笑われた

そして、この出来事が起きた時、「心の信号機」は何色？とグループワークで分類します。

41

43

【小6】親子関係について考えよう ～心の傷のメカニズム～ ①

心の中の信号機

●児童生徒がトラウマについて理解できるような授業を作る。

時間がたてば治る傷

しばらく心に残る傷

ずっと心に残る傷

最後は、6年生、親子関係について考えよう ～心の傷のメカニズム～です。

導入で、「どんな時に嫌な気持ちになる？」と問いかけ、「嫌な気持ちになるということは、心に傷ができたということだね。」と続けて、「心の傷について考えてみよう」を提示し、「心の中の信号機」というとらえ方を紹介します。

「心の傷」のプロフェッショナル

精神科医

心療内科医

臨床心理士

スクールカウンセラー

次に、心の傷の治療法を考えます。そして、専門的な支援者を「職業」として提示し、その治療方法を紹介します。

42

44

「つながり」のプロフェッショナル

みんなにも
できることがあります

さらに、家族や友達、パートナーなど、身近な人がトラウマについても学んでくれることが、大きな支えになることを知り。

「傷」に、強くなるには…???

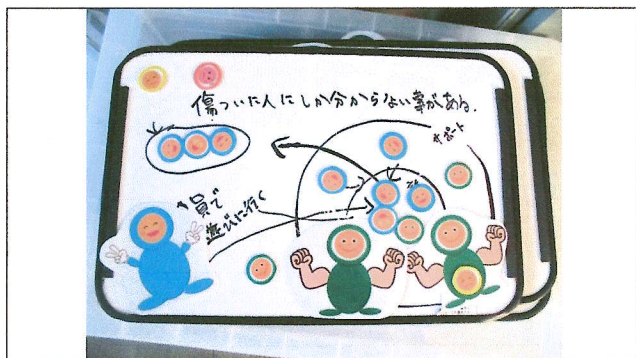
色んな経験をする ごはんを食べる 人と人とのつながりを深くする
好きなことを見つけておく 一日の楽しみを見つける
みんなからのアドバイスをバネにがんばる みんなと一緒に遊ぶ
「まあいっか」という気持ちをもつ 常に楽しい気持ちでいる
「楽しい!」をいっぱいもって、これで傷を癒す 赤や黄色の経験をして強くなる
信頼できる友だちをつくる 赤信号になっても「治る」と信じる!
一人の時間を大切に使う 一人で考えて無理なら誰かに相談する
色んな思い出をつくる ぐっすり寝て忘れる
初めて会った相手を知る 自分を責めず自由に生きる

そして、心の傷を治療する最後の一人が「自分自身」であることに気づくことができるように、自己のレジリエンスについて考えワークシートにまとめる。

これから先の人生で様々な出来事に出会うなかで、心の信号は何色にもなることを理解し、傷に強くなるにはどうすればよいかを考える。

45

47



様々な心の状態を持つ人々が、みんな生きていくときに、どのように繋がり、お互いにどのような関わり方をすればよいかを考え、グループで図式化します。

「安全基地」をもとう

「人」は「人」で傷つき
「人」で癒されます
だからこそ
人とつながることを恐れなくて
まず、あなたが「しあわせ」に
そして、だれかを「しあわせ」に

心の安全基地について提示し、「そこに棲む人」（今までの人生で出会った本当に信頼できる大切な人）や思い出（本当に楽しく幸せだったと感じたこと）の大切さについて、気づくことができるようにする。

46

48



指導後の児童の感想では、「プライベートゾーンの約束をみんなが守ったら楽しい学校になるね。」「友だちが嫌がっていないかを考える」、といった感想がありました。保護者の感想では、「相手との距離間について良い気づきがあった。」「これからも取り入れてほしい。」といった感想がありました。



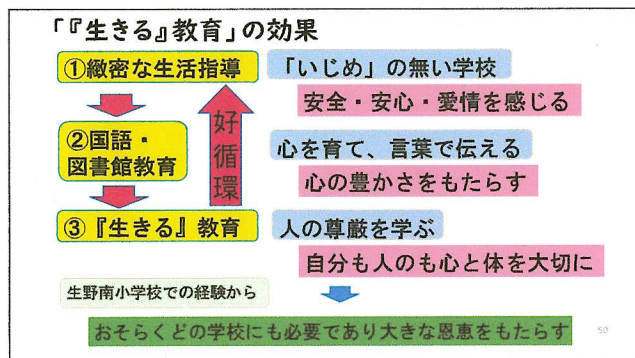
それどころか、子どもたちは、保護者からの虐待が「いじめ」であり、不合理だと気づき、先生に虐待被害を訴えてくるようになりました。当然学校は、その都度、子ども相談センターと連携して対応しています。

昨年度は、3年生「子どもの権利条約」の授業で、「自分の生活の中で子どもの権利が守られていない場合について」を友達と考える中で、担任が過去の虐待事案を把握しました。4年生「ライフストーリーワーク」の授業でも友達との面談で悩みを打ち明けた時、虐待事案を担任が把握できるようにしており、当然、学校全体で対応できるようにしています。

本校では、年々、子ども虐待事案は減少し、昨年度は、疑いが1件ありましたが、子ども相談センターと保護者の面談につなぎました。このような取り組みが将来の「子ども虐待予防教育」にもなっていると考えおり、一昨年度より、「日本子ども虐待防止学会学術集会」で報告しています。

49

51



本校では、「『生きる』教育」からの好循環が後戻りしないようになっていきます。つまり、緻密な生活指導で安全・安心が確保され、国語の授業で思ったことを自由に発言できるようになり、「『生きる』教育」への理解がより進み、子どもたちは、自ら安全安心を作りだしています。

本校で育った子どもたちは、人にやさしくなるので、将来、きっと、自分の子どもを虐待したり、パートナーにDVをしたりすることは無いと思います。

「『生きる』教育」の研究にご協力いただいた皆様（主な講演テーマ、著書など）

2014年度～	大阪市立清水丘小学校校長 田村泰宏 氏 「荒れる心に『ことば』の響きを」（『心を育てる国語科教育』より）
2016年度～	山梨県立大学大学院人間福祉学研究科特任教授 西澤 哲 氏 「虐待を断ち切るために教育現場ができること」 「トラウマ・アタッチメントを抱える子どもの未来」
2017年度～	兵庫県立大学環境人間学部教授 竹内和雄 氏 「デートDV・スマホに潜む危険について考える」
2018年度～	和歌山信愛女子短期大学保育科教授 西原 弘 氏 「子ども虐待と愛着課題について」 子ども家庭庁参与 社会福祉士 辻 由起子 氏 「性・生に関する大阪の課題と『『生きる』教育』について」 大阪ライフストーリーワーク研究会代表 才村真理 氏 「小学校現場におけるライフストーリーワークについて」 立命館大学大学院教育臨床学教授 菱田準子 氏 「『生きる』教育」授業内容検討会・公開授業 講師・指導講評

ここで、「『生きる』教育」にご協力いただいた皆様をご紹介します。年度は、初めて学校に来ていただいた年で、お名前、講演会のテーマや著書名をあげています。

50

52

2019年度～ 田島童園施設長 下川隆士 氏
「『生きる』教育」授業内容検討会 講師
2020年度～ 国際医療福祉大学大学院教授 橋本和明 氏
「愛着課題と発達課題について」

京都大学大学院教育学研究科教授 西岡加名恵 氏
「公教育における『生きる』教育の意義」(2025年9月本校)
～次期学習指導要領改訂に向けた議論での「学校の本質的な役割」を踏まえて～

「『生きる』教育」公開授業視察 (2025年9月10日) 「『生きる』教育」授業視察 (2025年11月6日)

中国教育科学研究院課程所
所長・研究員 郝志軍 Hao Zhijun
研究員 楊清 Yang Qing
副研究員 項純 Xiang Chun
助理研究員 哈斯朝勒 Ha Sichaoole
助理研究員 劉曉霞 Liu Xiaoxia

ミルズ大学 【世界授業研究学会会長】
キャサリン・C・ルイス教授

ボウリンググリーン州立大学
ジョアンナ・C・ウィーバー准教授
同 ホリー・ブランク准教授



京都大学の西岡加名恵先生の講演会テーマは、昨年度のもの。そのしたは、海外から視察に来られてご指導いただいた研究者の皆様です。

前ページ記載の3人の先生方からご指導いただいた内容を私のメモから要点をまとめてみました。正確には、ご本人の著書をご覧ください。校内で共有して次につなげようと思っています。

渡辺弥生 氏「感情リテラシーを育む」

子どもの怒りや反抗的な態度の背景には、悲しみや不安、寂しさなどの見えにくい感情が隠れていることが少なくない。大切なのは行動だけを叱るのではなく、その奥にある気持ちを理解し受け止めることである。自分や他者の感情に気づき、適切に表現・調整する「感情リテラシー」の育成が重要。いじめや不登校の予防、心の健康や良好な人間関係の形成につながる。

三谷はるよ 氏「ACE・PCE研究から考える子ども大人の生きづらさと学校の可能性」

ACE（逆境的小児期体験）は、虐待やネグレクト、家庭内の問題など子ども期の強いストレス体験を指し、心身の健康、学業、就労、人間関係、自殺リスクなどに長期的な悪影響を及ぼすことが研究で示されている。一方で、信頼できる大人との出会いや安心できる居場所、仲間とのつながりといったPCE（肯定的小児期体験）は、その影響を相対的に回復力を高める。学校はトラウマに配慮した関わりを通じ、子どもの安心・つながり・自己価値を育む重要な役割を担う。

亀岡智美 氏「トラウマインフォームドケアで変わる子どもの見方・かかわり方」

トラウマインフォームドケア（TIC）は、子どもの問題行動を「なぜその行動をしたのか」ではなく「その子に何が起きたのか」という視点で理解し支援する考え方である。虐待やいじめ、家庭環境の問題などの逆境体験（ACE）は、心身の健康や学習、人間関係に長期的な影響を与える。支援では、安全・信頼・選択・強固・エンパワメントを重視し、行動の背景にある苦痛や感情に寄り添うことが重要である。また、再トラウマ化を防ぎ、支援者自身のケアや組織的な取り組みも必要とされる。

前ページ記載の3人の先生方から、ご指導いただいた内容を、私のメモから勝手にまとめています。正確には、ご本人の著書をご覧ください。

53

55

2026年6月25日

視察・意見交流研修会

法政大学文学部心理学科教授 渡辺弥生 氏

「感情リテラシーを育む」(※ゲーム的なワークショップを含む)

8月1日・2日(研修会に参加して)

SMBC京大スタジオにおけるプロジェクト「貧困・格差・虐待の連鎖を乗り越える教育アプローチの研究開発と普及」(2024年8月～)

通称:「『生きる』教育」プロジェクト

京都大学大学院教育学研究科教育実践コラボレーション・センター
E.FORUM 第7回「『生きる』教育」研修会

大阪大学大学院人間科学研究科准教授 三谷はるよ 氏

「ACE・PCE研究から考える子ども大人の生きづらさと学校の可能性」

兵庫県こころのケアセンター副センター長 亀岡智美 氏

「トラウマインフォームドケアで変わる子どもの見方・かかわり方」

今年度もこのような先生方から直接「『生きる』教育」へのご指導・ご意見をいただき、参考にさせていただいています。

おわりに

1. 「『生きる』教育」「生命(いのち)の安全教育」(教材は、学校や地域の実情に合わせて、加除改変して使用可能(文部科学省))「生きる力を育む『性』に関する指導」は重なりが多いのでこの学校でも取り組みやすいと思う。
2. トラウマ理解については、生野南小学校に赴任する前から怒鳴ったり、叩いたり、罰を与えたりすることが返って悪い結果を招くことを経験的には知っていた。しかし、西澤哲先生に出会って本当に深く理解できた。そして、先日の三谷はるよ先生、亀岡智美先生の話で、児童間のトラウマインフォームドケアがやはり重要であると確信した。
3. 昨年度の日本子ども虐待防止学会では、子どもたちにかいて「子どもの権利」を教えるかが話題になっていた。学校が「子どもの権利」を教え、「子どもの権利」を守りぬく覚悟を持てば、「いじめ」「不登校」「子ども虐待」は必ず減らせると思う。
4. 「生きる教育」は、国語・図書館教育を工夫して感情リテラシーを育てることと、生活指導で軽微な暴力であっても指導しきる体制をとることを合わせれば、短期間でも大きな成果を出すことができると思う。

おわりに

54

56